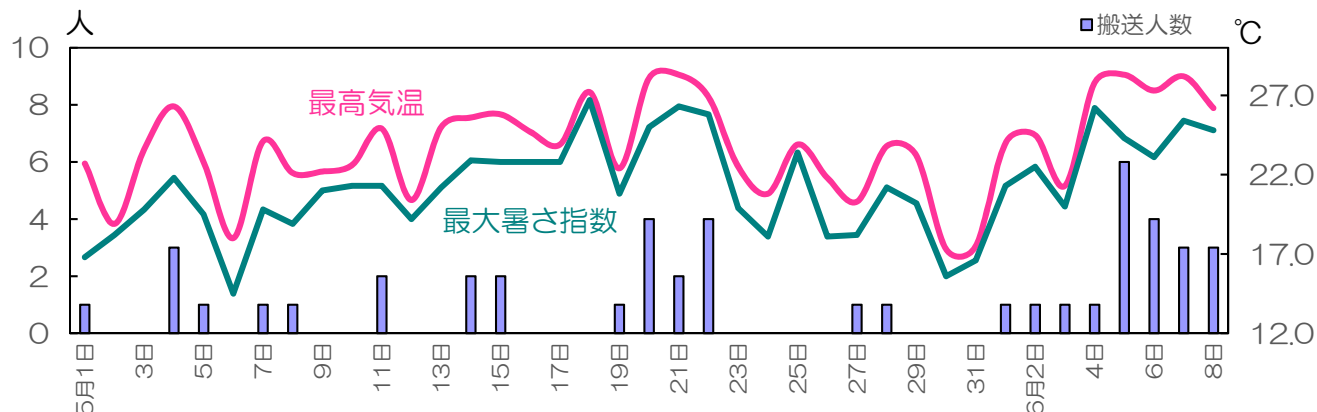


熱中症情報

<搬送数>

令和7年5月1日～6月8日までの搬送数（消防局データを使用）は、計46人（5月26人・6月20人）でした。6月5日は、搬送数が6人/日と、期間内で最多を記録しました。6月5日は、最高気温が28.3℃で、真夏日でした。



熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。

気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

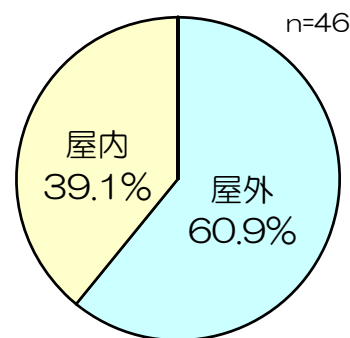
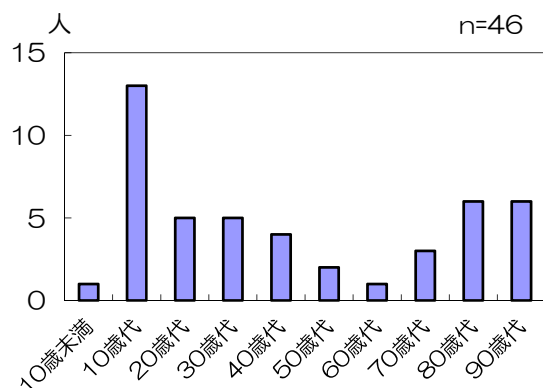
身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

暑さ指数とは？ 人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別>

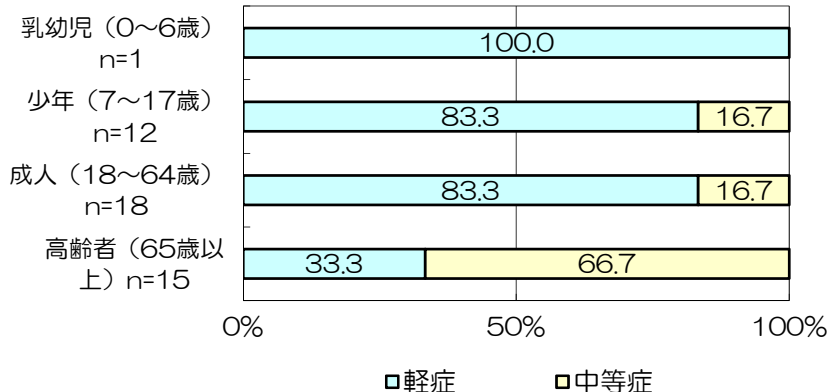
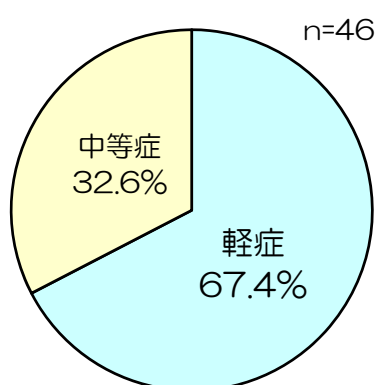
10歳代が13人（28.3%）で最も多く、次が80・90歳代で各々6人（13.0%）でした。

<発生場所> 屋外60.9%、屋内39.1%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度*>

軽症67.4%、中等症32.6%でした。スポーツ（部活動等）中や終了後、屋外作業で起きていました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。